

特別講座「遺跡の保存と活用課程 II」

この研修は、各地の遺跡整備・活用の事例を取り上げて討議することを通じて、遺跡の整備手法や遺跡の活用法に関する専門的知識と技術を習得するとともに、遺跡整備の理念や遺跡の再生に向けた展望についても探ることを目的にしたものです。11月7日・8日の両日、遺跡整備活用の沿革についての講

義ののち、大分県安国寺集落遺跡、福岡県平塚川添遺跡、群馬県保渡田古墳群、大阪府新池埴輪窯跡、千葉県上総国分尼寺跡、岩手県志波城跡、福井県一乗谷朝倉氏遺跡、沖縄県首里城、の6つの遺跡についてそれぞれの復元整備例や活用の現状と問題点などが報告されました。

その後、全国各地方ごとの遺跡整備の現状をコメントしたパネリストも加えて、遺跡整備の理念、遺跡復元の技術・手法、整備した遺跡の維持管理の方法、遺跡の活用などを主なテーマに討議をおこないました。参加者約100名で、遺構復元と遺構保存とをどう調整するか、遺跡保存とバッファゾーン確保の問題、史跡公園とテーマパークとはどちらがうのか、などが議論されました。この研修で一定の結論が得られたわけではありませんが、遺跡の整備活用をどうすべきか、という問題は各地で直面している悩みであるだけに、時宜を得た企画として有意義であったとの感想が多くありました。ただし、日程の制約で討議が必ずしも十分深められなかったという指摘もあり、今後改善すべき点であります。

この研修は、研究集会方式という新企画のものでありましたが、こうした研修を今後積極的に進めてもらいたいとの声が多く、これから他の研修においても前向きに検討すべき点であると思われます。

(埋蔵文化財センター)